

【学校教育目標】

「生きる力」を有する児童の育成

【本年度の重点目標】

○「学びの環境づくり」をさらに充実させるとともに、「主体的・対話的な学び」による、「授業の質の向上」を図り、確かな学力の向上をめざす。

【4－大変よい 3－よい 2－努力を要す 1－すぐに改善】

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
学校目標達成度		<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート「学校が楽しい」と思う児童を90%以上目指す。 全学年重点単元を決めて算数の分割授業を行う。 学期に1回「家庭学習振り返り週間」を設定し、保護者啓発に努める。 	3.2	<p>【3.7】</p> <ul style="list-style-type: none"> *登校して楽しいと答えることが大切です。 	◇児童の実態把握の分析から課題を見出し、来年度の重点課題を設定する。
	<p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○93%の児童が「学校が楽しい。」と回答 ○算数の分割授業は年度当初に年間計画を作成し、全学年、1学期に2単元の実施 ○「家庭学習振り返り週間」の定着（カード提出率 83%→95%） ●「学校が楽しい」という項目で「どちらとも言えない。」と答えている児童が3% 				
総合所見		「学校が楽しい」児童100%をめざすとともに、「生きる力」有するためにも、家庭学習の習慣化を強化する必要があると考える。			
学校運営		<ul style="list-style-type: none"> 「チーム上下」の意識をもって、全職員で共通理解・協働実践に努める。 	3.4	<p>【3.8】</p> <ul style="list-style-type: none"> *学校に行く度、感動して帰宅します。先生達の熱心が伝わります。 *先生たちの問題共有化が進むとよいですね。 *全職員の共通の理解は大切です。頑張ってください。 	◇学年末反省会で課題を焦点化する。
	<p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定期的に、様々な児童の実態を交流や全職員による共通理解を図りながらの指導体制及び問題行動に対して担任とともに管理職や専科教員による組織的対応 ●全職員で取り組めていないものもあり、教員の意識付けが必要 				
総合所見		「チーム」として機能するためにも、同じ目標のもと役割分担を行い、その成果を共有することが肝要であるとする。			
教育課題（重点目標）	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケート「勉強がよく分かる」と思う児童を85%以上目指す。 学習規律の徹底を図り、一時間の授業を充実させるために、校内外の研修を通じて指導力の向上に努める。 	3.0	<p>【3.7】</p> <ul style="list-style-type: none"> *基本となる「書く」活動をしっかり取り組んでいただいている。考えたことや感じたことを記述できる子どもが増えてほしいです。 *国語中心の研修が行われている一方、子どもの学力では国語力に課題があるという結果が出ているので、再考の余地があるのではないのでしょうか。 *学力向上が少し上向きにあり、嬉しいことです。 	◇自分の考えを「書く」活動を1単位時間に必ず位置付ける。 ◇基礎学力を身に付ける取組を見直し、徹底する。
	<p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○89%の児童が「勉強がよく分かる。」と回答。また、学習規律の定着 ○国語科を中心とした研修を通じた「分かる授業作り」の展開 ●学力が十分身に付いていない児童の学力の底上げ 				
	体力向上	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーション運動についての研修を行い、体育学習に積極的に取り入れていく。 兄弟学年を柱に運動習慣につながる取組を推進する。 	2.6	<p>【3.2】</p> <ul style="list-style-type: none"> *コーディネーショントレーニングを指導しやすい道具等をそろえてほしい。 *縦のつながりが大切です。チーム上下で一丸となって。 	◇日常の体育の授業に計画的に位置づける。
	<p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年2回のコーディネーショントレーニングの研修、年3回の兄弟学年における外遊びの定着 ●研修内容を実践する時間と道具不足 				
	心の教育	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の「生活アンケート」実施や日常の言動に留意して、早期発見・早期対応に努める。 道徳をはじめとする心の教育を充実させ、学級・学校内に支持的風土をつくる。 保護者参観で「道徳」の授業公開を行い、保護者啓発に努める。 	3.0	<p>【3.4】</p> <ul style="list-style-type: none"> *善・悪の区別を身に付け、相手の気持ちがわかる子どもたちに。 	◇人権学習や道徳で学んだことを行動に結びつけるようにするとともに、評価（賞賛）も行う。
	<p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達の良さを見つけるなど、互いを思いやる気持ちの醸成 ○人権学習や日常的な生活の中での児童の言動の観察と指導 ●人権学習や道徳で学んだことの行動化 				
規範意識	<ul style="list-style-type: none"> 「上下のやくそく」「未来につなぐ上下10か条」をもとに、当たり前のことが当たり前を守るような風土づくりに努める。 月1回の「生活アンケート」の中に、「あいさつができる。」「友達を大切にできる。」の項目を取り入れ、振り返り手立てを設定する。 	2.7	<p>【3.3】</p> <ul style="list-style-type: none"> *子どもたちでつくり上げた「上下10か条」を子どもたちの手で大切にしていってほしいです。 *地域の大人も協力的に子どもたちと関わりたいものです。 	◇問題意識をもつような提示の仕方や学級による取組の内容を全校に広げる。	
<p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童会による「上下10ヶ条」の委員会や学級への啓発（児童アンケート「あいさつ90%」、「友達を大切に94%」） ●児童会の啓発に対する学級の話し合いや一人一人の意識向上が不十分 					
不登校解消	<ul style="list-style-type: none"> 朝の登校状況の確認と家庭への連絡を確実にし、積極的に保護者に働きかける。 安心して学校に来れる状況をつくるために、仲間を大切に合える集団づくりを行う。 年2回、全学年の実態に応じた情報モラル教育を行う。 	3.0	<p>【3.3】</p> <ul style="list-style-type: none"> *全員登校日が年間数日とのことですが、一日でも多くなると良いですね。 *取り組みの成果あり。 	◇担任や専科など複数教員による関わり、保護者との話し込み、児童の生活目標の設定等実践する。	
<p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教頭を中心とした保護者への働きかけによる登校児童の増加 ●遅刻、欠席する児童や保護者への関わりや教室での居場所づくりの提供 					
総合所見		学力向上を図るためにも、規範意識の醸成や不登校解消に力点を置く。そのためにも、子どもの居場所づくりや賞賛活動は不可欠であるとする。			
教育環境		<ul style="list-style-type: none"> 花壇や掲示物など、美しく整備された環境づくりに努める。 学級単位の清掃活動を徹底させる。 校外における環境にも意識をもたせるために「地域のひと・もの・こと」を活用した学習に取り組む。 	2.9	<p>【3.6】</p> <ul style="list-style-type: none"> *環境作り、物の大切さもわかってほしい。 	◇「地域のひと・もの・こと」を活用した学習を継続的に取り組みとともに、地域素材の掘り起こしを行う。
	<p>（結果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当区域を責任もって行う清掃活動 ○全学年「地域のひと・もの・こと」を活用した学習の取り組みによる地域の環境やよさへの気付き ●「道徳科」と関連した、学校や地域を大切にしたい気持ちの高揚 				
総合所見		郷土愛を育むためにも、体験的な活動や人との出会いを通して、住んでいる地域のよさを実感させることに気付かせる学習を進めていく必要があると考える。			